

令和5年度 半田小学校 学校評価一覧表

1 学校経営・学校運営について

重点目標	「子どもの実態と保護者や地域の願い・実情に即した教育活動を推進して心豊かにたくましく生きる子どもを育成する学校運営」の推進。
具体的な取組	○めざす教師像を共有する。○風通しのよい職場づくりの励行。○報告・連絡・相談の徹底と業務の協力体制の整備。 ○業務の効率化を目指し、組織的運営体制の整備を行う。
数値目標	1 「協働の組織体制のもとで、教職員の共通理解を大切にして教育活動や学校運営を行っている。」三者の肯定的評価が90%以上。 2 「教職員は、分掌校務に主体性を発揮して取組み、効率のよい学校運営や教育活動の工夫改善に努めている。」教職員の肯定的評価が90%以上。 3 超過勤務時間が45時間を超えない教職員を90%以上。
数値目標の中眼見直し	(変更なし)
達成状況	1 協働の組織体制のもとで、教職員の共通理解を大切にして教育活動や学校運営を行っている。三者の肯定的評価が85%以上。(肯定的評価・教職員100%・保護者90%・児童96%) 2 教職員は、分掌校務に主体性を発揮して取組み、効率のよい学校運営や教育活動の工夫改善に努めている。教職員の肯定的評価が90%以上。(肯定的評価・教職員100%) 3 超過勤務時間が45時間を超えない。90%以上(教職員90%)
学校関係者評価	・説明不足や保護者の取り違えもあったのでは。教育目標を発信する機会を増やしたり、対話による情報発信を増やしたりする必要がある。 ・状況により保護者に個別で情報を発信していけば良いのではないか。 ・SNSを活用するなど、情報発信・情報共有の方法を工夫する必要がある。
成果と課題	・それぞれの校務分掌に責任をもち、適宜対応することができている。 ・全職員が共通理解を図り、協働して学校運営に取り組めた。 ・昨年度より超過勤務時間45時間を超えない率が6ポイント改善された。引き続き効率的な働き方への意識の向上や業務改善に努めたい。
今後の取組	・業務の協力体制を維持するとともに教職員間の共通理解を図り、教育活動の充実にも努める。 ・業務の協力体制を維持するとともに、教職員の個性や特性が発揮できる校務分掌を考える。 ・学校運営協議会やPTA総会、半小短信(学校だより)、学校ホームページ等で学校運営・経営等について情報発信する。

2 人権教育の取組に関して

重点目標	学校生活全体を通じた人権教育の推進。
具体的な取組	○子ども一人一人を大切にしながら、子どものもつよさを引きだす学習活動の充実。 ○自分からすすんで、元気な声であいさつのできる子どもを育てるあいさつ運動の実施。 ○人権学習の保護者・地域への公開。 ○年間指導計画に基づいた授業の実施と人権課題と直接向き合っている方々から直に学ぶ授業の実施。
数値目標	1 「学校は人権を尊重する考え方や態度を養う教育が行われている。」に保護者の肯定的評価85%以上。 2 「学校は、自分や友だちへのいじわるや悪口がなく、みんなと仲よく安心して生活することができる。」に児童の肯定的評価85%以上。
数値目標の中眼見直し	(変更なし)
達成状況	1 「学校は人権を尊重する考え方や態度を養う教育が行われている。」保護者の肯定的評価85%以上(肯定的評価・保護者89%) 2 「学校は、自分や友だちへのいじわるや悪口がなく、みんなと仲よく安心して生活することができる。」児童の肯定的評価85%以上。(肯定的評価・児童75%)
学校関係者評価	・面談・日記・保護者との連携等、様々な方法で児童理解を深めていく必要がある。 ・人との交流や様々な体験活動をとらして児童の成長を促していく。 ・大人が子どもに関わりすぎることによって子どもの成長を阻害する場合もある。大人が子どもをどこまでのフォローをするかが問題。
成果と課題	・児童の言動や変容を敏感に察知し、仲間づくりの構築や人権学習での学びを日常に生かせる実践力を高めることができた。 ・研究授業や研修会を行い、児童がよりよい生き方をめざす研究を深めることができた。 ・学校生活アンケートを実施し、個々の児童悩み等について早期発見、早期解決に努める。
今後の取組	・児童の差別的言動を見抜き、どの子も安心して生活できる学校環境の構築に努める。 ・人権参観日や講演を行い、保護者や地域に取組を発信し理解や協力を得る。 ・外部講師の招聘や体験を伴う活動を実施し、全学年において、人権学習を推進していく。 ・家庭や幼稚園、中学校、地域とも連携した人権教育を推進していく。

3 生徒指導の取組に関して

重点目標	○自尊感情と他を思いやる心の育成。 ○異学年交流や体験活動の重視。
具体的な取組	○学習や活動を子どもに委ね、自覚と責任を持って取り組ませ、最後までやり遂げるような支援の充実。 ○一人一人の思いや願いを生かし、お互いに大切にしたい、助け合う集団づくり。(異年齢集団活動を充実する。)
数値目標	1 「話す人を見て、話を最後まで聞ける」と自己評価(肯定的評価)をする児童が90%以上。 2 「自分からあいさつができる」と自己評価(肯定的評価)する児童90%以上。 3 「学校は、子どもたち一人一人の人格を尊重し、人につながる力や自分の役割を果たす力、規範意識や行動力を高める教育を行っている」保護者の肯定的評価85%以上。 4 「児童の実態や家庭環境を細かく把握し、児童一人ひとりが輝ける場所(学校)づくりをしている。」と答える教職員が90%以上。
数値目標の中眼見直し	(変更なし)
達成状況	1 話す人を見て、話を最後まで聞ける児童の肯定的評価90%以上。(肯定的評価・児童90%) 2 自分からあいさつができる。児童の肯定的評価90%以上。(肯定的評価・児童92%) 3 学校は子どもたち一人一人の人格を尊重し、社会的資質や行動力を高める教育を行っている。保護者の肯定的評価85%以上。(肯定的評価・保護者87%) 4 「児童の実態や家庭環境を細かく把握し、児童一人ひとりが輝ける場所(学校)づくりをしている。」と答える教職員が90%以上。(肯定的評価・教職員100%)
学校関係者評価	・あいさつや言葉遣い、人の話を聞くことは、円滑な人間関係を築くのに大切である。学校全体で共通認識し、指導を継続してもらいたい。 ・子どもは落ち着いており問題行動は非常に少ない。社会科見学等では指示どおりに動くことができている。学校での指導が行き届いている。
成果と課題	・人の話を最後まで聞こうとする児童が増加している。 ・問題や課題に対して、学校全体で組織的に取り組むことができている。 ・児童理解について定期的に行ったり、教職員で共有したりする機会があり、生徒指導に取り組むやすい環境がとられていた。 ・あいさつを活発にする指導について模索していきたい。
今後の取組	・児童理解に努めるとともに、ポジティブな行動支援を基盤とした指導が一層向上するよう研修を実施していく。 ・学校での児童の頑張りや学校の取組が保護者に見えるように、家庭との連携に努める。 ・今後も外部人材を活用した活動や校外学習等を通して、どのような場面でもあいさつや人の話を聞く習慣を定着させる。 ・困ったことを気軽に相談できる同僚性、協力的な風通しの良い職場環境を継続させ、教職員全体で組織的に取り組む。

令和5年度 半田小学校 学校評価一覧表

4 学力向上の取組に関して

重点目標	○基礎的・基本的な知識技能の習得。 ○学習意欲の向上と学習習慣の定着。 ○課題解決のための思考力・判断力・表現力の育成。
具体的な取組	○「よくわかる」授業, 「楽しい」授業の創造。 ○与えた課題の点検とやり直しの徹底。 ○家庭読書及び家庭学習の確保と習慣化。 ○授業と家庭学習を連動させた授業運営や反復学習。 ○知識技能の習熟具合の評価活動。 ○子どもが考える時間や表現し合う活動を十分確保するなど主体的な学習の徹底。
数値目標	1 「宿題などの家庭学習や復習に根気よく取り組み, 意欲的に学習ができている」と肯定的評価する児童が80%以上。 2 「先生は, パソコン等を使ってわかりやすく示したり, 困っているときにアドバイスをくれたりする」に児童の肯定的評価85%以上。 3 「学校は, 子どもたち一人一人の習熟の程度に応じた教育が行われている。」に保護者の肯定的評価85%以上。 4 「学校は, きめ細かい指導に心がけ, 子どもの学力を伸ばす教育を行っている。」に保護者の肯定的評価85%以上。 5 「児童が考えたり, 伝え合ったり, 振り返ったりする活動を十分確保するよう努めている。」に教職員の肯定的評価90%以上。 6 「児童のつまずきや課題を把握して, 個に応じた授業や補充学習の徹底に努めている。」に教職員の肯定的評価90%以上。
数値目標の中間見直し	(変更なし)
達成状況	1 「宿題などの家庭学習や復習に根気よく取り組み, 意欲的に学習ができている」に児童の肯定的評価80%以上。(肯定的評価・児童85%) 2 「先生は, パソコン等を使ってわかりやすく示したり, 困っているときにアドバイスをくれたりする」に児童の肯定的評価85%以上。(肯定的評価・児童92%) 3 「学校は, 子どもたち一人一人の習熟の程度に応じた教育が行われている。」に保護者の肯定的評価85%以上。(肯定的評価・保護者86%) 4 「学校は, きめ細かい指導に心がけ, 子どもの学力を伸ばす教育を行っている。」に保護者の肯定的評価85%以上。(肯定的評価・保護者82%) 5 「児童が考える時間や表現し合う活動を十分確保するよう授業改善に努めている。」に教職員の肯定的評価90%以上。(肯定的評価・教職員94%) 6 「児童のつまずきや課題を把握して, 個に応じた授業や補充学習の徹底に努めている。」に教職員の肯定的評価90%以上。(肯定的評価・教職員100%)
学校関係者評価	・大切なのは子どもに学習への好奇心を持たせることである。単なる知識の詰め込みでなく学習の仕方を教えていくべき。 ・年3回の授業参観では保護者も子どもの状況把握し切れていない。授業参観の機会を少し増やしてもいいと思う。 ・宿題や家庭学習については, 家庭の協力的には難しい面がある。 ・デジタル化の導入のメリットや実際の効果がどうなのか, 今後みていかなければならないように思う。
成果と課題	・GIGAスクール構想の推進に向け, ICT支援員の配置により効果的な授業づくりに取り組むことができた。 ・児童が主体的に学習に取り組む力を身に付ける授業づくりや家庭学習への意欲を向上させる工夫が必要である。
今後の取組	・学級懇談, 個人懇談, 教育相談等で保護者との情報交換を心がけるとともに, 学級だよりやHP等により取組を発信し, 理解や協力を得られるよう努める。 ・児童が「わかる・できる」実感を得られるよう授業づくりに取り組む。 ・校内研修を充実させ, 指導力や授業力を向上させる。

5 学校安全の取組に関して

重点目標	○災害安全・交通安全に関する知識と対応能力を高める。
具体的な取組	○災害に関する図書の整備。授業, 講習会の充実を図る。 ○児童が地震災害時の危険に対し, 主体的に避難行動がとれるようにする。 ○防災避難訓練を定期的に行い, 児童が高い意識のもと参加できるようにする。 ○自分の命は自分で守る意識を高める。 ○安心メール(マチコメール)の保護者加入率を高める。 ○登下校における右側一列歩行等, 交通安全に対する意識を高め, 実践できるよう徹底を図る。 ○自転車利用者には安全な利用とヘルメットの着用を図る。○学校施設・設備に異状がないか日々確認し, 担当者が月々, 点検し, 定期的点検を行う。
数値目標	1 「学校でした交通・生活・防災などの安全に関する授業や活動を, 生活に生かしている」と肯定的評価で答えた児童の割合が90%以上。 2 「学校は, 子どもの安全管理について配慮した指導が行えている」と肯定的評価で答えた保護者の割合が90%以上。 3 「学校安全(防災・生活・交通)の組織運営体制は整い, 教職員は各自のとるべき任務を把握している」と肯定的評価で答えた教職員の割合が90%以上。
数値目標の中間見直し	(変更なし)
達成状況	1 「学校でした交通・生活・防災などの安全に関する授業や活動を, 生活に生かしている」と肯定的評価で答えた児童の割合が90%以上。(肯定的評価・児童96%) 2 「学校は, 子どもの安全管理について配慮した指導が行えている」と肯定的評価で答えた保護者の割合が90%以上。(肯定的評価・保護者93%) 3 「学校安全(防災・生活・交通)の組織運営体制は整い, 教職員は各自のとるべき任務を把握している」と肯定的評価で答えた教職員の割合が90%以上。(肯定的評価・教職員94%)
学校関係者評価	・小中合同の防災訓練を隔年くらいで実施しても良いのではないかと。 ・地域が防災に対する意識が低いので意識を高めていくことが重要である。 ・登下校時に災害が発生した場合の安全確保や安全指導についても家庭と連携して行えたらよいのではないかと。
成果と課題	・警察署の協力のもと, 登校時の交通指導を行えた。大きな事故等なく安全に登下校できている。 ・PTA役員や学校運営協議会の方にスクールガードに協力いただき, 見守りや情報提供をいただいた。 ・校内巡視や安全点検を計画的に行い, 事故防止に努めた。
今後の取組	・地域と連携した防災教育や防災訓練の推進を図る。 ・さまざまな状況での避難訓練を実施し, 自助・共助の意識を高める。

令和5年度 半田小学校 学校評価一覧表

6 学校・家庭・地域連携に関して

重点目標	学校運営協議会(コミュニティスクール)の推進。 ふるさと半田を知り、誇りに思い、感謝し、愛する教育の推進。
具体的な取組	○教育活動や学校運営の様子の積極的な情報発信。 ○保護者や地域参加の教育活動の充実と保護者、地域公開の授業・行事の充実。 ○担任と保護者で子どもの生活・学習の様子について連絡を密に取る。 ○地域社会を素材とした学習活動の展開。 ○地域の伝統的な文化・産業や地域で活躍する人々から直接学ぶ機会の充実。
数値目標	1 「学校は保護者の声や意見に耳を傾け、よりよい学校づくりに努めている」に肯定的な評価の保護者が90%以上。 2 「学校は、たよりやホームページ等を通して、教育活動の様子を伝えている」に肯定的な評価の保護者が90%以上。 3 「保護者、地域の教育力を活用した学習活動を積極的に行っている。」に肯定的な評価の教職員が90%以上。
数値目標の中間見直し	(変更なし)
達成状況	1 「学校は保護者の声や意見に耳を傾け、よりよい学校づくりに努めている」に肯定的な評価の保護者が90%以上。(肯定的評価・保護者90%) 2 「学校は、たよりやホームページ等を通して、教育活動の様子を伝えている」に肯定的な評価の保護者が90%以上。(肯定的評価・保護者94%) 3 「保護者、地域の教育力を活用した教育活動を積極的に行っている。」に肯定的な評価の教職員が90%以上。(肯定的評価・教職員83%)
学校関係者評価	・感染症対応のため、保護者にとっては学校の様子が見えづらく、学校とのつながりを感じにくかったのではないだろうか。 ・校外学習や講師を招くなど体験学習ができるよう先生方は工夫されたことが評価につながっている。 ・基本的な生活習慣の確立については、家庭との連携は必須であるが、啓発や取組については課題をいかに共有するかが難しい。 ・学校はHPや半小短信や学級通信、懇談等で情報発信に努めているが、否定的評価の中には、保護者の声に耳を傾けてほしいという思いも見受けられる。
成果と課題	・参観日や個人懇談、防災訓練や学校行事等、できる限り保護者に教育活動を参観していただける機会が持てるよう努めた。 ・地域の達人の方々から児童が学ぶことがたくさんあるので、これからも積極的に連携を図りたい。 ・半小短信・学級便り・HP等で学校の情報を発信してきた。
今後の取組	・今後も保護者の理解を得られるよう、丁寧な説明や対応を心がけ、連携して教育活動を推進する。 ・地域の人材や文化・歴史・環境を活用した教育を推進し、取組を発信する。 ・感染症対応により見合わせとなっていたPTAの事業について、よりよい方策を検討し、保護者・教職員が連携し活動を進める。

7 体力向上の取組に関して

重点目標	○運動に親しむ機会を増やし、すすんで運動する子どもの育成。
具体的な取組	○運動に親しみながら、積極的に体力向上に取り組めるよう授業改善を図る。 ○栄養教諭と連携し食育の推進を図る。 ○養護教諭と連携し、健康教育や健康保持増進に努める。 ○年間を通して、放課後に体づくり活動を行う。
数値目標	1 「体育の授業では、学習のめあてをもって活動している。」と答える児童が80%以上 2 「学校は子どもたちに体力がつくよう年間を通して工夫や努力をしている。」と答える保護者が80%以上 3 「外遊びを奨励し、年間を通して体力向上のための指導をしている。」と答える教職員が85%以上
数値目標の中間見直し	(変更なし)
達成状況	1 「体育の授業では、学習のめあてをもって活動している。」と答える児童が80%以上(肯定的評価・児童92%) 2 「学校は子どもたちに体力がつくよう年間を通して工夫や努力をしている。」と答える保護者が86%以上(肯定的評価・保護者90%) 3 「外遊びを奨励し、年間を通して体力向上のための指導をしている。」と答える教職員が85%以上(肯定的評価・教職員100%)
学校関係者評価	・運動することの大切さを児童に教えていくことが大切である。 ・運動目標を設定して取り組むことが大切。目標があれば頑張れる。 ・健康アプリを活用して体力向上に取り組む方法もある。
成果と課題	・Waっかタイムは今後も体力向上のよい機会と捉えて推進していく。 ・体育の学習の場面では、めあてをもって活動できる児童が9割と高ポイントである。 ・外遊びに消極的な児童の意識を高める方策が大切である。楽しみながら運動できる機会・場の設定が必要である。
今後の取組	・体育科における授業改善や業間や昼休みの遊び、Waっかタイムなど、引き続き体力向上の機会確保に努める。 ・家庭や養護教諭、栄養教諭と連携し、健康の保持増進や食育の推進を図る。 ・「体力アップ100日作戦」を全学年で積極的に取り組み、体力向上の意欲を高める。